

令和5年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

「学習活動」「学校生活」「進路支援」「特別活動」の4領域で重点項目・課題を設定して教育活動に取り組んだ。4領域とも昨年度の反省・課題を踏まえるとともに、生徒の主体性や積極性のさらなる向上を目指しながら、授業や部活動、各種行事を行った。「学習活動」では、生徒および教員用タブレットを積極的に活用し、教育用クラウドサービスやタブレットを利用した学習指導の推進を目標とした。「進路支援」では、1・2年生において、進路実現のための基礎学力の重要性を意識させるとともに、学校見学会や校外での研修会などへの積極的な参加を促し、多様な進路希望や大学等入試方法の多様化に対応する取り組みを行った。各重点課題の評価等の概要は以下のとおりである。

(1) 学習活動

多くの教員がICTを効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」に向けて授業を工夫し、実践した。また、研究授業や互見授業により、教科部会を中心に授業の成果や課題を共有し、授業改善に努めた。生徒の家庭でのICTの利用状況については、週3回以上利用している生徒が6割程度おり、多くの生徒がタブレット等のICTを有効に活用している。活用の効果については、今後も継続して検証していく必要がある。商業科では、多くの生徒が自らの目標を持ち、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには商業科目の基礎をしっかりと身につけた上で、自らの力を向上させていく必要があるなど、検定取得は学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。授業では、常に効果的な指導を模索し、改善を行っている。

(2) 学校生活

スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒や依存症の生徒も見受けられる。スマートフォンの長時間使用を控え、ネット依存にならない方策を生徒自治委員会が中心となって行った。学校ネットルール4箇条に、今年度新たに「マイルール（自分はこの絶対を守る）」を取り入れたほか、統一HRで「NOスマホ時間を増やすためにどうすればよいか」について話し合い、その危険性や自分たちの行動について考えさせ、規範意識を高めていくよう働きかけた。生活習慣を整え、心身の健康について主体的に判断する態度の育成を図るため、生徒保健委員会で調査や研究を行い、広報活動も行った。

(3) 進路支援

1・2年生に対しては、自らの進路目標を実現するため、進路支援プログラムの事前・事後学習を充実させ、進路実現のために基礎学力の大切さを認識させるとともに、オープンキャンパスや学校見学会、校外での研修会などへの積極的な参加を促した。3年生に対しては、教員が積極的に進路の情報収集と情報共有を行い、学習指導や進路指導に取り組んだ結果、進路支援の満足度に対して全体として「ほぼ達成」できた。

(4) 特別活動

学校行事や特別活動に全校生徒が意欲的に取り組み、集団活動や体験活動を通して、豊かな学校生活を築きながら連帯意識を育むことができた。体育大会では、生徒会が中心となり種目や実施方法を工夫したことで、学年を越えて様々な場面で生徒の自主的な活動を見ることができた。文化部発表会では、実施方法を工夫するなどし、合唱コンクールも開催した。部活動では、女子ホッケー部が全国選抜大会で二年連続準優勝、新聞部が全国高総文祭に8年連続で出場するなど、多くの部が成果をあげた。また、各部が実態に応じた目標を設定し、運動部、文化部ともに効率的な活動を実践することができた。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 生徒の学びを保障するため各教科でICTを活用した授業改善や教育用クラウドサービスを利用して、「主体的・対話的で深い学び」を推進する授業づくりをさらに進めていくとともに、生徒のタブレット使用のモラルを高めていく必要がある。商業科については、今後も粘り強く指導を行い、上級の資格取得に向かってチャレンジしようとする意欲を持たせる。
- (2) SNSの利用に関しては、身近な事例を提示し、生活習慣の改善や自己管理について注意喚起および広報活動をするとともに、生徒自らが考え、注意し合うことで生徒主体の活動を増やし、規範意識をさらに高めていく。
- (3) 多様な進路希望や大学等入試方法の多様化に対応するため、進路意識を醸成する行事や情報提供に努めるとともに、よりよい情報・学習環境の提供など進路目標の達成に生かせるような取り組みを継続していく。
- (4) 学校行事の実施方法について改めて検討を行い、生徒がより主体的に関わる活動を行っていく。部活動においては、現状を明確に分析し、体力・技術・精神面の充実を図る方法を検討し、取り組んでいく。
- (5) 創立百周年を迎えるが、これまで同様、地域との連携を大切にし、学校行事、探究活動、部活動やボランティア活動などの充実を図り、さらに石動高校の魅力を高めるとともに、生徒一人ひとりが輝く学校づくりを目指していきたい。

8 学校アクションプラン

令和5年度 石動高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動（生徒の学習意欲の喚起と基礎学力の伸長及びICT活用）	
重点課題	<p>①②生徒の探究心を喚起する「主体的・対話的で深い学び」を実践し、さらには家庭における学習や探究を促進するために、ICT機器や教育用クラウドサービス等を積極的に利用し、生徒の学びに向かう意欲を高める。</p> <p>③検定合格に向けて主体的に学習に取り組む能力を育成する。</p>	
現 状	<p>①②生徒一人につき1台が配備されたタブレットと教育用クラウドサービスの活用により、すべての生徒がこれらを使いながら授業に向かう環境が整っている。よって、教員にはこれまで以上にこれらの利用を通じてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善を進めることが求められており、生徒には家庭においても積極的に学習や探究活動に取り組ませることが必要である。</p> <p>③商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にも繋がっている。</p>	
達成目標	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の授業に、タブレットなどのICT機器や教育用クラウドサービスを活用した教員の割合</p> <p>②家庭学習でタブレット及び教育用クラウドサービスを週3回程度利用した生徒の割合</p> <p>① 80% ② 60%</p>	<p>③商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数</p> <p>(1)簿記 (2)ビジネス文書 (3)ビジネス情報 (4)プログラミング (5)商業経済 (6)珠算 (7)電卓 (8)英語 (9)会計実務</p> <p>10人以上（卒業年度）</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 互見授業を行い、アクティブ・ラーニングの実践やタブレット等を用いた授業の積極的な実施と意見交換を促す。 生徒に効率よく家庭学習を行うアイテムとしてタブレットや教育用クラウドサービスの積極的な利用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝や放課後の補習授業を実施する。 商業関連部活動を充実させる。 3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施する。 教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努める。
達成度	<p>① 75% (27名/36名)</p> <p>② 1学期 64% 2学期 55%</p>	<p>③全商主催検定1級3種目以上合格者 17名(昨年同時期21名)</p> <p>5種目0名、4種目7名、3種目10名</p>
具体的な取組状況	<p>①若手教員のICT利用についてはほぼ定着しているが、ベテラン教員に利用しないケースが見られる。これまでの教授法からなかなか脱却できないのかもしれないので、さらに働きかけて生徒の主体性を高める実践を促したい。</p> <p>②授業でのタブレット利用については、英語や地歴でよく利用されているようだが、国語と数学では少なかったとする回答が多かったことから、これらの教科では家庭学習でのタブレット利用の働きかけも少ないと考えられる。</p>	<p>商業科の教員が連絡を密にし、個々の生徒の弱点が克服できるように検定取得に向けて、各授業で模擬問題や過去問題に取り組むことに加えて、放課後等の補習や質問教室を実施した。</p>
評 価	<p>① B ② B</p>	<p>③ A</p>
学校関係者の意見	<p>多くの教員が「ICT活用」を意識し、様々な工夫をしながら授業を行っている。その成果について教員間で共有し、今後も授業研究を推進してもらいたい。</p>	<p>今年度も4種目合格者が7名いた。今後も、多くの生徒の検定合格に向けてきめ細やかな指導をお願いしたい。</p>
次年度へ向けての課題	<p>来年度は新学習指導要領による教育課程の実施が一巡することから、より一層、「主体的・対話的で深い学び」が求められる。反省をふまえ、従来通りの講義型のような教授法からの脱却を進めていきたい。</p>	<p>現2年生は現在3種目合格0名(昨年0名)・2種目合格6名(昨年15名)であり、3種目以上合格に向けて計画を立て取り組ませたい。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒が自分のスマホを持っており、自他の個人情報を安易に SNS に掲載したり、ネットルール・マナーを守らないことでトラブルが起きている。 ・ネットパトロールからの情報提供を受けて指導した生徒は近年少なくて、令和2年度3名、令和3年度1名、令和4年度は0名だった。 ・スマホ等を平日3時間以上使用している生徒は約50%にもなる。特に SNS と動画はほとんどの生徒が利用し、ゲームは約70%である。また、夜12時以降にスマホ等を使用している生徒が約20%おり、スマホ使用に起因する問題点のトップである「学習に悪影響、睡眠不足」（14.2%）につながっている。 ・学校ネットルールづくり実行委員会が中心となり、生徒が自ら「学校ネットルール4箇条」を決めている。令和4年度は「NOスマホ時間（帰宅後2時間以上）を作ろう」のルールが遵守できない生徒が多いため、4箇条すべてを遵守している生徒は54.5%と低かった。 ・生活リズムの乱れ等不規則な生活習慣により不調を訴える生徒がいるため、基本的な生活習慣の確立ができるよう、心身の健康について主体的に考え、判断し、行動する態度の育成が必要であると考え。
達成目標	<p>①学校ネットルール4箇条を遵守できる生徒の割合 80%以上</p> <p>②生活習慣にかかわる広報活動を行う（各学期に1回以上）</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ使用に関するアンケートで使用実態を把握し、イレブンセブン運動やネットルール4箇条の遵守を積極的に推進することで、長時間の使用を控え、ネット依存にならないようにする。 ・情報モラルやセキュリティの意識向上を図るため、全体集会や授業、HR等で実際に起こっている事件や事故の情報を伝え、被害者にも加害者にもならないために必要なことを考えさせる。 ・保護者にも協力を依頼し、家庭でスマホの使用について話し合う機会を持ってもらう。 ・学校ネットルールについては、生徒1人1人が自分のスマホやネット利用のあり方を見つめ、自分の問題の解決に主体的に取り組めるよう支援するとともに、多様な生徒に対応したものにするため、全体ルール【生徒みんなでこれを守ろう】とマイルール【自分はこれを絶対に守る】の2階建て構成とする。 ・生徒が問題意識をもって主体的に活動できるよう、環境を整える。（ホワイトボードの活用等） ・生徒保健委員会で生活習慣について知りたいことを話し合い、調査・研究を行う。
達成度	<p>①学校ネットルール4箇条を遵守できた生徒の割合 78.7%</p> <p>②保健だより等の情報紙の発行回数 5回（1学期3回、2学期1回、3学期1回）</p>
具体的な取組状況	<p>①自治委員会で出てきた「マイルール【自分はこれを絶対に守る】」案を取り入れ、今年の4箇条は共通ルール3とマイルール1とすることを全校生徒に周知して取り組んだ。生徒各自がマイルールを用紙に記入し、それを使って自治委員が学年ごとに4箇条を表現した「ネットルールツリー」を作成し、生徒玄関に掲示した。ルールを可視化し、毎日目にすることで「自分事」と捉える意識の高揚を図った。結果は目標にわずかに及ばなかったが、自治委員の主体的・積極的な活動が見られ、全体として各ルールの遵守状況は良好だった。</p> <p>②「保健だより」を通して、健康診断の日程とその対策、熱中症・感染症予防、ストレス解消法を始めメンタルに関する事など、行事等に合わせて心身の健康に関する情報を発信し、生徒の自己啓発を促した。また、生徒保健委員会では、「質のよい睡眠」について取り上げ、調査・研究を行い、学校保健委員会での発表を通じて、専門家から様々な助言を得ることができた。</p>
評 価	<p>① B</p> <p>② A</p>
学校関係者の意見	<p>スマートフォンの利用の仕方については、学校でのルール作りだけではなく、自分でルールを設定する「マイルール」を取り入れたことでより規範意識が向上したのではないかと思う。今後はさらなる規範意識の向上のため、家庭や地域の人たちの協力も必要ではないか。</p> <p>「保健だより」の定期的な発行はよい取組である。質の良い睡眠やストレス解消法など「保健だより」の内容に関して、友人や家庭でも話し合う機会が持てればさらによいと思う。</p>
次年度に向けての課題	<p>①・SNSの利用について、「スマホ安全教室」の開催や身近で起こっている事例紹介を通して、ネットの危険性や正しい使用方法について年間を通して啓発を続け、規範意識の向上を図りたい。</p> <p>・ネットパトロールからの報告が1件あった。特に1年生はスマホ・ネットに関する知識や危険性の認識が不十分な生徒が少なくない。早期対応を図り、ネットトラブルの未然防止を図りたい。</p> <p>②・生活習慣に関わる広報活動を継続して行い、心身の健康について啓発し、生徒が主体的に毎日の生活習慣を整え、自分で健康管理を行おうとする意識づけを図る。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）
重点課題	進路意識の向上と生徒への進路支援の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各々進路希望は持っているが、かなり漠然としたものであり、学年が進んでもなかなか明確な目標を見つけられない状況がある。具体的な目標を持っていないことが、学習や対策の遅れにも繋がっており、オープンキャンパスや見学会に参加することで、自分の進路を具体的に意識するきっかけになるのではないかと考えている。 ・ 進路選択が多様であり、生徒ひとりひとりに合った細かな進路支援が必要になっている。各生徒にとって十分なサポートが行われているかが大変重要であると考えている。
達成目標	① 1・2年生：オープンキャンパスや学校見学会、校外の研修会などへの参加回数（WEB 実施を含む） 年1回以上 ② 3年：進路支援の満足度 4段階評価による3以上が90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパスや体験会などの情報を随時更新し、できるだけ生徒の目に触れるよう工夫する。 ・ STやHRを利用しオープンキャンパスや見学会などの情報を担任から伝えてもらうとともに、進路に応じた参加の声掛けを行う。 ・ 休業中の課題にするなどして、学年全体で参加する雰囲気作りを行う。 ・ 3年生全員の進路支援をサポートするために、学年の担当者だけでなく、学校全体で生徒の進路を支えていくことのできる体制を構築する。
達 成 度	① 1・2年生：オープンキャンパス等への参加回数（WEB 実施を含む） 1・2学年合計 0.98回/年 (1学年 0.77回/年、2学年 1.18回/年) ② 3年生：進路支援の満足度 評価3以上 進路実現のサポート 100% 学力を伸ばす努力 98.7% 面談・個別指導の実施 97.4% 進路情報の提供 94.2% 学習しやすい環境 90.3% 5項目すべての項目で、評価3以上が90%以上
具体的な取組状況	① オープンキャンパス参加の重要性を伝えたり、参加方法を提示したりする学年の取り組みにより、参加方法がわからなかったというような生徒はいなかったが、日程や時間が合わず、オープンキャンパスに参加できなかった生徒が不参加生徒の半数を占めた。また、不参加の理由として、「志望校が決まっておらずどこに行ってもいいかわからなかった」と答えた生徒も、1学年で20%、2学年で16%おり、志望校を決定する手がかりとして、オープンキャンパスや見学会などが有効であると繰り返し伝える必要があると感じられた。機会を捉え、保護者の方に対しても、オープンキャンパスへの参加を呼びかけており、1、2年生合計で約17%の生徒が保護者と一緒に参加したと回答した。 ② 3年生に実施した進路支援のアンケートでは、「先生たちは生徒の進路実現のためにサポートしているか」という質問に対して、全員の生徒が「よくあてはまる」「あてはまる」という回答をしてくれた。昨年までの同様の質問の結果は、95%以上の高い評価ではあったが、100%は今年度が初めてであった。これも、学年の先生を中心に生徒一人ひとりに進路支援が届くように、指導が必要な生徒に対する担当者を決め、昨年度の指導の問題点を改善しながら学校全体で支援体制を整えた結果であると考えられる。ある生徒の感想には、「自分たちのレベルを考えてそれに合ったように支援して下さった。先生方のサポートがなければ今の進路はないと強く思った」と書かれていた。
評 価	① B ② A
学校関係者の意見	生徒の進路希望先の多様化や大学等入試方法の多様化など課題はあるが、今後も個人指導の充実やきめ細やかな進路指導を行ってほしい。 早期に自分の進路目標を明確にするためにも、1年次からのオープンキャンパスへの参加を促す取り組みは効果も大きいと思うので、継続してほしい。
次年度に向けての課題	昨今の年内入試の台頭により、オープンキャンパスや体験会への参加は単に志望校を決めるためのものから、志望校に合格するためのものに変化してきている。総合型選抜入試や学校型推薦入試では、オープンキャンパス参加の有無や参加した際の印象などについて問われることも多い。さらには、ホームページを見ただけではわからない実際の学校の様子などが説得力のある志望理由に繋がることもあり、本校においてはそのような点からもオープンキャンパスの意義を伝えていく必要がある。 進路支援について、前年度より評価が下がった質問項目は、「学校から進路に関する情報が与えられているか」「石動高校は、進路実現のために学習しやすい環境が整っているか」という項目であった。「進路に関する情報」については、「3年次に大学や進路について考える授業があればよかった」という意見があり、また「環境」に関しては「学習スペースの整備」についての意見があった。これらの意見をもとにできることから改善を進め、生徒にも変化が見えるように取り組んでいきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	特別活動への取り組みを通して主体性や積極性を育成する。												
重点課題	特別活動へ主体的に参加し積極的に関与できるよう活動内容を工夫する。												
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会や文化部発表会をはじめとする特別活動では、生徒達が意欲的に取り組む様子が見られ、集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を楽しくとともに自主性や連帯意識を育てている。 ・本校部活動数は運動部13、文化部10あり、部活動加入率は運動部約57%、文化部約32%、全体で約89%と、多くの生徒が部活動に参加している。 												
達成目標	<p>①学校行事（体育大会、球技大会）に対する充実度 5段階評価による4以上が70%以上</p> <p>②部活動に対しての充実度や結果に対する満足度 5段階評価による4以上が70%以上</p>												
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や学校行事への生徒参画の機会を増やすとともに、生徒の社会性や指導力の向上を図れるよう運営や内容を改善し、多くの生徒が充実感を持って活動できる機会を設ける。 ・部活動登録後、全体計画や活動内容等について顧問と部員が情報共有しながら、個人や集団の実態に応じた目標を持たせ、活動を行う。 ・学校行事や高体連、高文連主催の各種大会等後にアンケートを実施し、その結果を踏まえ、今後の活動に検討・改善を行う。 												
達 成 度	<p>①学校行事（体育大会）に対する充実度 5段階評価における4以上が 総合評価98%</p> <p>②部活動についてのアンケート結果（1・2年生、3年生の順に記載）</p> <table border="1"> <tr> <td>運動部 評価4以上</td> <td>活動の充実度 (67.6%、71.3%)</td> <td>活動時間の満足度 (90.5%、87.0%)</td> </tr> <tr> <td>大会結果の満足度 (56.8%、34.0%)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>文化部 評価4以上</td> <td>活動の充実度 (71.1%、53.8%)</td> <td>活動時間の満足度 (91.4%、91.0%)</td> </tr> <tr> <td>大会結果の満足度 (82.9%、88.0%)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>活動の充実度は全体で66.1%であった。</p>	運動部 評価4以上	活動の充実度 (67.6%、71.3%)	活動時間の満足度 (90.5%、87.0%)	大会結果の満足度 (56.8%、34.0%)			文化部 評価4以上	活動の充実度 (71.1%、53.8%)	活動時間の満足度 (91.4%、91.0%)	大会結果の満足度 (82.9%、88.0%)		
運動部 評価4以上	活動の充実度 (67.6%、71.3%)	活動時間の満足度 (90.5%、87.0%)											
大会結果の満足度 (56.8%、34.0%)													
文化部 評価4以上	活動の充実度 (71.1%、53.8%)	活動時間の満足度 (91.4%、91.0%)											
大会結果の満足度 (82.9%、88.0%)													
具体的な取組状況	<p>①学校行事</p> <p>体育大会の運営をコロナ禍以前の形式に戻すとともに、生徒がより活動の主役となれるよう見直した。主な内容として以下のとおりである。(1)開閉会式の挨拶や賞状等授与を生徒会役員が行った。(2)競技運営の生徒が主体的に活動できるよう、事前研修の回数を増やすなどの工夫を行った。球技大会では生徒会からの提案でキンボールを実施し、実際の競技や運営がスムーズにいくよう体育科との連携を図った。運営に関わる生徒と活躍の機会の増加は、競技だけでなく行事へ意欲的参加につながり、生徒の主体性向上と行事の充実につながったと考える。</p> <p>②部活動</p> <p>ホッケー部は女子の全国選抜大会準優勝や男子のインターハイベスト8を果たした。野球部は春季大会や全国選手権富山大会でベスト8に進出した。陸上競技部の女子部員が北信越大会や北陸大会に出場した。新聞部は全国高総文祭に8年連続で出場し、4年連続で全国入賞を受賞した。吹奏楽部は中部日本コンクール県大会で金賞を受賞、珠算経理部もビジネス計算競技北信越大会に出場した。昨年に続き運動部文化部とともに優秀な成果を上げた。また、部活動の所属率は全校生徒の89.2%と高く、学校生活を充実させたいと意欲的に活動に取り組む様子が見られる。</p>												
評 価	<p>① A</p> <p>② B</p>												
学校関係者の意見	<p>体育大会や球技大会に対する満足度が非常に高い数値を示したことは、素晴らしいことである。多くの苦労もあったと思うが、教員と生徒が協力し、時間をかけて競技種目や運営方法を改善したことで、より満足度が高まったのではないかと。</p> <p>ホッケー部の活躍や新聞部の「学窓新聞」、ボランティア活動や地域と連携した探究活動など、多くの生徒が活躍している。もっと外部に紹介する機会があればよいのではないかと。</p>												
次年度に向けての課題	<p>学校行事の充実について、体育大会や球技大会などにおける生徒の取り組みがより主体的となるよう準備や運営に関わる生徒を増やすとともに、準備を含めた体験機会の増加のため予定表や概説の作成と内容の精選に取り組むたい。</p> <p>部活動については、体力・技術の向上や精神面の充実だけでなく、社会性や人間関係の醸成を図るためにも有益な活動であると考えている。大会成績の向上のほか、練習計画の作成をはじめ運営に参画する機会を増やすなど充実感を得ることで、内面の成長と活動の活発化につながると思われる。外部講師や保護者とといった地域の人材との連携をとおしてこれらの課題に取り組むたい。</p>												

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)